

「働く態度」の形成に向けた支援（５）

—階層別チーム編成について—

○信濃 啓象
(株式会社ドコモ・プラスハーティ)
KEY WORDS: 働く態度

小笠原 拓
(株式会社ドコモ・プラスハーティ)
態度のチェックリスト

菅野 敦
(東京学芸大学)
態度の形成に向けた支援
階層別チーム編成

I.はじめに

(1)態度の階層構造理論

菅野（2015）は福祉的な就労から一般就労まで、支援の場
に幅があることに言及しつつ、『いずれの場においても（中
略）彼らの生活する力（関わる、学ぶ・楽しむ、暮らす）
を高めることで、社会的な自立をめざしているという点で
は共通と考えられる』と述べ、社会的な自立をめざすため
に、知識や技能に加えて、社会生活に必要な「実践的な態
度」の形成が必要性を指摘している。

変化の激しい現代社会では、多様な環境にも適応・順応し
ながら、より良い課題解決に向けて自ら考え、学び続ける
「態度」が求められる。その一方で、障がいのある人のな
かには、これまでの生活経験のなかで、うまく適応できな
かったり、または周囲に依存していることで、課題解決に
向けた「態度」が形成されづらい傾向がある。

障がい者に対する作業・就労支援の意義とは、「働くこと
（働くなかで自ら課題を解決する経験をする）」を通じて
、社会で生きていくための実践的な態度を形成すること
にあると考えられる。

菅野（2015）は職業教育において育成が求められている態
度を「感受性・応答性」「自律性」「積極性」「責任性」「主
体性（柔軟性・多様性）」の6つに整理し、
それぞれの難易度から階層構造を示している（図1）。

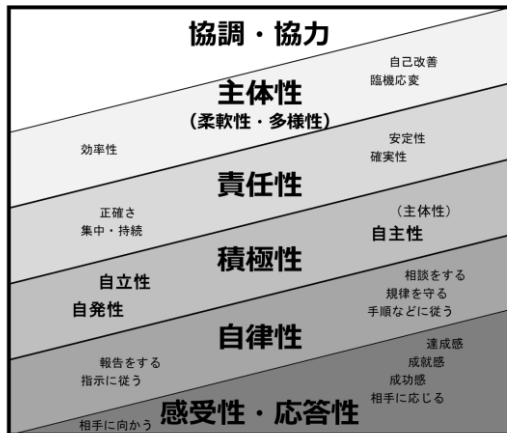


図1 態度の階層構造（菅野 2015 をもとに作成）

この「態度の階層構造」では、課題解決に向けた「態度」
の段階が体系的に整理・提示されており、支援者が対象者
個々の態度の形成段階に応じて支援を検討するための視座
を提供するものと言える。

(2)態度のチェックリストと態度形成に向けた支援の検討

菅野（2015）の「態度の階層構造」理論をもとに、小笠原
ほか²⁾は、各階層の「態度」と態度の現れとしての作業・就
労場面における具体的な「取り組みの姿」を一覧にした
『態度のチェックリスト』を作成した。このチェックリス
トをもとに支援対象者の態度の形成段階をアセスメントす
ることが期待される。

また、態度は作業・就労の場における具体的な取り組みの
経験を通じて形成されると考えられる。そのために支援者
には支援対象者の態度の形成段階に応じて、意図的に「取
り組みの機会」を設定し、取り組みをおこなうための「環
境づくり」と「本人へのトレーニング」を実施すること、
さらには「支援者自身の本人への関わり方（距離感や頻
度）」を調整することが求められる。

小笠原（2024）「態度の階層構造」に基づき、上述の態度
形成に向けた支援についてもリスト化し支援の体系化を図
っている。

(3)態度の階層構造理論に基づく社員の育成・支援

株式会社ドコモ・プラスハーティ（以下、「当社」と略）
は、ドコモグループの特例子会社として、知的障がい者を
中心に自社雇用し、ビル清掃業務を行っている。

当社・代々木センターでは態度の階層構造理論に基づき、
社員個々の態度の形成段階に応じた個別支援計画を作成し
ている。

上述のように、態度の形成に向けては意図的な「取り組
みの機会」の設定と取り組みを行うための支援が必要にな
る。当社の清掃業務はチーム体制を敷いて行っているが、
代々木センターでは個別支援計画の導入にともない、社員
の育成・支援の段階（態度の階層構造）に応じたチーム編
成を検討した。

本研究では態度の階層別のチーム編成による社員の育成・
支援の効果と課題を検証することを目的とする。

II.方法

代々木センターに配属している障がいのある社員（15名）
個々の働く態度の形成段階に関して、「態度のチェックリス
ト」を用いてアセスメントを行った。

アセスメント結果に基づき、社員個々の育てたい態度に応
じて「自律性」チーム、「自立性」チーム、「自主性」チーム
の3チームに再編成した。

III. 結果・考察

チームの再編成により、社員の育成段階に応じた作業環境
を整備するとともに新たな課題を見出すことができた。以
下にチームごとの主な成果と課題を示す。

【自律性】チーム

- ・成果：他の社員に頼っていた部分を自分でやる自覚が芽
生えた
- ・課題：作業工程を細かく提示し曖昧な部分をなくす

【自立性】チーム

- ・成果：支援者からの遠隔での指示により作業を行えるよ
うになった
- ・課題：社員個々に応じた手順書等の作成

【自主性】チーム

- ・成果：急な作業変更にも対応できるようになった
- ・課題：自分で考えて作業を行うためのツールの提供

(SHINANO keizou, OGASAWARA taku, KANNO
atsushi)